

区分	No	意見の概要	本市の考え方・対応
計画に関する事	1	<p>新しく出来る南分署の救急車両の配置台数が救急車1台と消防車1台になっており、救急車は現状より改善されますが、消防車が現在(南分署1台、土々呂分署1台)の2台から1台に減車されています。これについての説明がないように思いますが、如何でしょうか？</p>	<p>本市消防に配備されている7台の消防ポンプ車のうち、1台を減車いたしますが、(仮称)消防署延岡南分署の立地条件等が土々呂、南延岡両出張所の管轄を十分にカバー出来る場所にあり、本署並びに東海分署からの追加の出動体制も整備しており、消火活動に支障はなく、消防力の低下も発生いたしませんのでご安心下さい。なお、本市における火災による出動件数は、20年前は74件で昨年は54件と、ここ数年50件前後の出動となっております。一方、救急車の出動件数は、20年前が年間3,360件で、10年前が4,389件、昨年は5,532件と着実に年間100件程度増加してきており、今後も高齢化社会の進行により、増加して行くものと推計しております。このような出動状況の変化を考慮し、消防車両を1台減らし、救急車両を1台増やすこととしたところでございます。</p>
	2	<p>本計画は現在既に着工されており、現時点での意見の反映は難しいと思います。特に設備費等は契約が済んでいるので見直しは難しいと思いますが、実施段階でのコストダウンを行い、コストダウン分は返納して貰いたい。</p>	<p>計画段階よりコストダウンを心掛け、計画に反映してまいりました。その為、建設が進む中での経費の削減は難しいかと思われませんが、今後、切り詰めが可能などころがあれば、検討してまいります。</p>
	3	<p>女性消防吏員への必要な設備(仮眠室、トイレ)も配慮されているのは図面上で確認でき、防災等の色々な場面を考え必要だと理解しています。今月の広報のべおかの女性消防隊の話では、「現在女性消防隊が消火活動をする事はない」と書いてありました。今後、女性消防吏員として救急救命や消防活動を行う具体的な計画はありますか？</p>	<p>広報のべおかに掲載されていましたが女性消防隊は延岡市消防団女性消防隊(非常備)のことであり、この女性消防隊は災害現場での消火活動などは行わず、消防に関する啓発活動や応急手当講習、操法大会、出初式におけるアナウンスや接待など主にソフト面での活動を中心として行っています。また、現在、消防本部には2名の女性消防吏員(常備)が勤務しており、災害現場へも出動しています。そのため(仮称)消防署延岡南分署におきましても、女性職域拡大のために必要な整備を行う予定であります。</p>

区分	No	意見の概要	本市の考え方・対応
整備に関する こと	4	このエリアは、津波浸水エリアであり、その対策は盛り土を行うと思うが、その盛り土の高さが不明なので、明確にしてほしい。	ご意見のとおり、建設場所は津波浸水エリアではありますが、津波発生が予想される場合には、緊急車両を延岡南インターチェンジ付近の高台へ移動させ、通信指令等の重要な機能を維持することにより、緊急時の対応には支障が出ないようにする考えです。なお、日常の出動の利便性を最優先に考慮し、著しい敷地のかさ上げは行わず、笹目橋南詰交差点付近とほぼ同じ高さで敷地を整備いたします。盛り土によるかさ上げを行った場合、敷地勾配角の拡大により車両の出入りに支障が生じる可能性がでてくると考えるからです。
	5	浸水時の深さと遡上高(津波到達高さ)は、異なるので、浸水进行より盛り土では、最高津波高さの津波を防ぐことはできない。遡上高(最高津波高さ)から、消防車・救急車等を守るために防水シャッターとして、津波から車両被害を防止する工夫をしては。	津波発生が予想される場合には、車両被害を防止するため、緊急車両を延岡南インターチェンジ付近の高台へ移動させ、災害出場に備える計画にしております。
	6	ドクターカーの実績ができてきている中で、ドクターカーの配置はしないのか。	ドクターカーは、平成30年4月18日に運用を開始し、実績を積みあげているところです。本市における、ドクターカー運用は、県立延岡病院との連携のもとドクターカーピックアップ方式を取っているため、消防本部の緊急車両を使用して、県立延岡病院へ出向し、医師と看護師をドクターカーへ乗車させる必要があります。そのため、県立延岡病院から距離のある(仮称)消防署延岡南分署へのドクターカー配置は、現時点では検討いたしておりません。